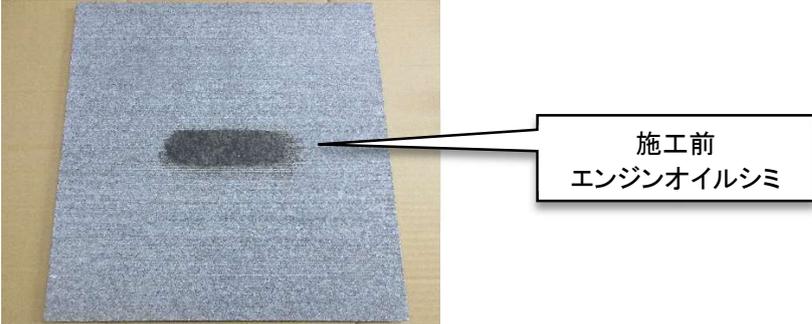
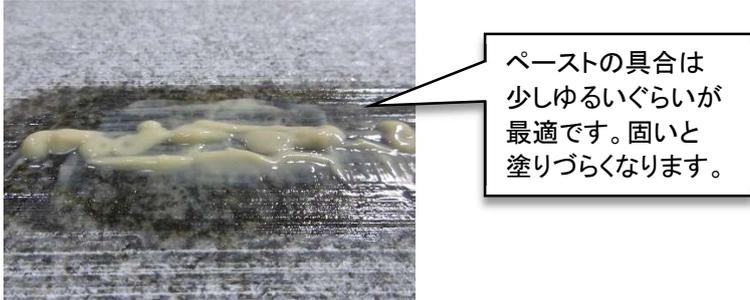
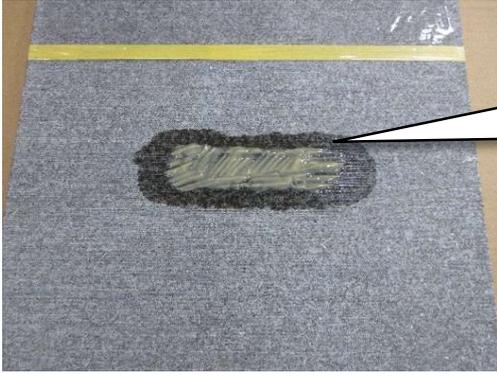


# 施工要領書

製品名	建築石材用油除去剤 <b>鉱物油除去剤</b>
用途	
■御影石・大理石・磁器タイル・コンクリート等に付着したエンジンオイル、ドア回りのヒンジ油、工場内外で目立つ機械油、コーキングのブリード汚染、金属面の手アカ・油分等の除去。	
注意事項	
<p>■必ず原液で使用してください。本製品は石油系溶剤になりますので水とは混ざり合いません。</p> <p>■耐溶剤性・耐薬品性の弱い基材には使用しないでください。</p> <p>※水洗いの際、電動ポリッシャー、フロアポリッシャー等での機械洗浄は絶対に行わないでください。摩擦により着火する恐れがあります。</p> <p>※高圧洗浄機を使用しますと、水と混ざらない本製品と分解した油汚れが飛散する可能性がありますので、使用はお控えください。</p>	
使用方法	
<p>《基材の表面洗浄》</p> <p>①施工面の土砂・ゴミ・ホコリ・水分等を予め除去してください。 ※施工面が濡れている場合、鉱物油除去剤が染み込みにくくなりますので、必ず十分に乾いた状態で施工を行うようにしてください。</p> <p>②施工しない箇所や周辺基材を養生してください。</p> <p>③鉱物油除去剤を使用する分だけ耐溶剤用容器に移し、薬品用ハケ・ウエス等に染み込ませて塗布してください。</p> <p>④反応することで油が分解してきますので、ウエス等を用いて拭き取ってください。</p> <p>⑤油汚れが残ったときは再度③④の作業を繰り返してください。</p> <p>⑥基材の濡れ色が完全に消えるまで、十分に乾燥させてください。 ※基材を水洗いする場合は、鉱物油除去剤及び油汚れを完全に除去し、十分に乾燥させた後に行ってください。 ※乾燥後も基材のシミ・濡れ色が目立つ場合は、弊社商品石材用洗浄剤『アルケミー』で洗浄することで色味の差が多少縮まります。 ※吸い込みの多い基材で表面洗浄では除去しきれない油汚れの場合は、次に示す《油のシミ除去作業(湿布・養生施工)》を行ってください。</p>	
<p>《油のシミ除去作業(湿布・養生施工)》</p> <p>①施工面の土砂・ゴミ・ホコリ・水分等を予め除去してください。 ※施工面が濡れている場合、鉱物油除去剤が染み込みにくくなりますので、必ず十分に乾いた状態で施工を行うようにしてください。</p> <p>②施工しない箇所や周辺基材を養生してください。</p> <p>③油のシミのある箇所の周りを養生テープで囲んでください。養生の囲いは広めに行い、必ずビニール等による養生の準備を事前に行ってください。</p> <p>※ガムテープやパイオランテープの使用は避けてください。テープ跡が取れなくなる恐れがあります。</p>	
<div style="display: flex; align-items: center;">  </div>	
<p>④鉱物油除去剤と弊社商品湿布吸着剤『トルネード』を混ぜてペースト状にしてください。 ※目安として、『トルネード』1kgに対して鉱物油除去剤3～4リットルが適量となります。 詳しくは『トルネード』の施工要領書をご確認ください。</p>	
<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  </div> <div style="text-align: center;">  </div> </div>	

- ⑤混合したペーストをシミ・汚れの部分に薬品用ハケ・ローラー等で満遍なく塗布してください。  
※ペーストの厚みは3～5mmくらいにしてください。薄いとすぐに乾燥してしまいます。

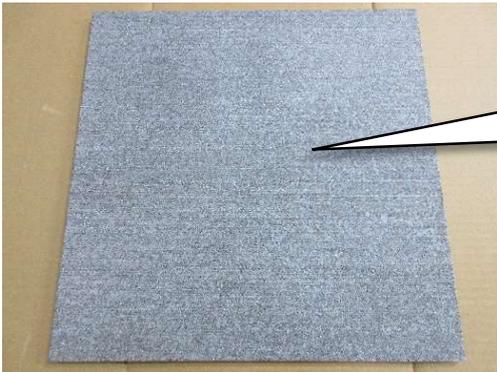


シミのある箇所に  
満遍なく塗布してください。  
薄いとすぐに乾燥します。

- ⑥塗布後、速やかに施工箇所をビニール等で覆い、養生テープを付け養生させてください。  
※養生テープはシミの箇所からできる限り離して付けてください(最低30cm以上が目安となります。)  
シミのすぐ近くで養生しますと本製品で養生の糊を溶かし、テープ跡等のシミとして残る可能性があります。



- ⑦シミ・汚れの浸透具合にもよりますが、30分～24時間放置してください。  
※放置時間は汚染具合により異なります。最初は30分～1時間程度でお試しをいただき、効果が見られないようであれば放置時間を延ばしてください。  
※途中、乾いてしまうと効果がなくなりますので、ご注意ください。  
⑧放置後、養生を外し、ペーストを剥がして回収してください。  
⑨ペーストが回収できたら、ブラッシングをしながら水洗いしてください。



施工後  
シミもキレイに除去できました。

- ⑩シミ・汚れの除去が不十分なときは④～⑨の作業を繰り返してください。  
⑪基材の濡れ色が完全に消えるまで、十分に乾燥させてください。  
※分解した油を放置しておくと再吸着します。  
※完全除去までは数回の湿布・養生が必要となる場合があります。また一度はシミが除去できたように見えても、数日後に石材内部に残っているシミが再度発生する可能性もありますので、充分にご注意ください。  
※シミの箇所だけに湿布を行うと、施工箇所のみがきれいになり過ぎる可能性がありますので充分にご注意ください。  
状況によっては区画全体への湿布が推奨される場合もあります。また、湿布を行わない基材は弊社商品石材用洗剤『アルケミー』等で洗浄することで、湿布施工箇所との色味の差が縮まります。

標準使用量(原液使用時)	5～10㎡/ℓ	※使用量は基材によって多少異なります。
--------------	---------	---------------------

#### 洗浄後の保護とメンテナンス

- 弊社商品浸透性保護剤『アリストン』『ニュートン』『クレストン』等を塗布すると汚れにくく、また汚れても容易に除去できるのでメンテナンスの負担を軽減します。

## 使用上の注意

揮発性の溶剤で、蒸気を吸引すると中毒を起こす恐れがありますから、取扱いには下記の注意事項を守ってください。

- ① 鉱物油除去剤は引火性の物質です。施工要領書、使用上の注意及び SDS をよく読み、作業する時は換気を良くして火気には充分注意してください。
- ② **エアレス・スプレー・噴霧器等で絶対に施工しないでください。**
- ③ ご使用前に貴社使用条件及び目的に適合するか、充分検討の上ご採用ください。塗装面に使用する場合は、塗装面を侵す場合がありますので予め目立たない場所でテストしてからお使いください。本施工前に必ずテスト施工を行い施工面及び周辺基材への影響をご確認ください。
- ④ プラスチック等の樹脂製品を侵す恐れがありますので、付着したときは速やかに水洗いしてください。
- ⑤ 鉱物油除去剤は原液のままお使いください。水と混ぜるタイプの洗浄剤ではありません。
- ⑥ 保護剤を塗布する場合、鉱物油除去剤が残留していますと密着不良・外観不良等の不具合を起こします。洗浄後は充分に水洗いをして、充分に乾燥させてから塗布してください。
- ⑦ 芝・植木・池等の近くで作業するときは必ず養生の上ご使用ください。
- ⑧ 作業をするときは換気をよくし、必要に応じて局所排気設備のある所で作業してください。
- ⑨ 必ず適切な保護具（保護マスク・保護メガネ・不浸透性の保護手袋・保護衣・長靴等）をお使いください。
- ⑩ 口や目に入ったときは、速やかに充分な水洗いをし、医師にご相談ください。
- ⑪ 手や皮膚・衣類についたときは、速やかに充分な水洗いをしてください。異常のある場合は医師の診察を受けてください。
- ⑫ 子供の手の届かない冷暗所に密栓して保管してください。運搬目的以外での車内保管や別の容器に移しかえての保管はしないでください。
- ⑬ 容器から出すときは、こぼさないように注意してください。一度別の容器等に移した液はもとの容器に戻さないでください。開封後はなるべく早くご使用ください。
- ⑭ 作業の際には、飲食・喫煙等は絶対に行わないでください。
- ⑮ 取り扱い後は手洗いを充分行ってください。
- ⑯ 用途以外には使わないでください。
- ⑰ 施工に専門知識・技術を要するため、業務用として販売しています。一般の方はご使用をお控えください。

※ 作業員及び第三者の安全確保のために必ず適切な措置をとってください。

※ 排水・臭い・揮発ミスト・植物等の環境への影響について事前確認の上、必ず適切な措置をとってください。

● ホルムアルデヒドを含有する原料は一切使用しておりません。

● 製品改良のため、より適切に使用していただくため、予告なく内容を変更する場合があります。

製品有効期限：未開封冷暗所保管で製造より1年

## 性 状

溶 剤	第 4 類第二石油類 危険等級Ⅲ	取り扱い	火気厳禁
-----	------------------	------	------